

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291700035		
法人名	(有)ドリー夢		
事業所名	グループホームシャロームきこえ		
所在地	千葉県佐倉市染井野4-5-4		
自己評価作成日	平成23年12月13日	評価結果市町村受理日	平成24年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307		
訪問調査日	平成24年1月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年2年目を迎え住み慣れた環境の中、ご入居者様の自立・安心・安全・個別対応の充実を心がけ、ミッション(目的)として「ご入居者様の幸せとご家族の安心」の為に、日々のケアに努めています。食事は、栄養士が管理しており、個々の摂取状況に合わせ、刻み・軟采にするなど、完食して頂けるよう気を配っております。健康面では、向かいに公園があり、皮膚にとっても外気浴は良好な為、気分転換もして頂ける散歩を積極的に取り入れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの目の前に地区の公園があります。周辺の雰囲気はまるでホームの庭園のようになっています。
公園は新しい街づくりの一環として調整池の周辺に作られたもので、広い敷地に水と緑が美しく配されていて、お洒落な東屋と噴水がシンボルとなっており、地域住民の憩いの場として、親しまれています。公園で利用者が散歩時に地域住民と顔なじみになっています。
同じ敷地内に同一法人運営の介護付き有料老人ホーム、デイサービス、ショートステイがあり、一体運営で定期的に職員の交流や研修会を行っており組織として強みがあります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自立・尊厳・社会参加」を職員が常に見えるところに掲示しており、職員全体に浸透し、把握し、実践している。	運営理念として「住み慣れた地域の中で生活が出来るよう支援し、地域から得た有益は地域に還元する」としています。月1回職員ミーティングで法人の代表も加わって理念について話し合いを行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公園・散歩での挨拶・会話は、顔見知りの方も多く日常的に見られます。自治会主催の敬老会も参加されています。	ホームの目の前にある地区の公園は敷地が広く、地域住民の憩いの場として親しまれており、公園での散歩時に地域の方達と顔なじみになっています。地域住民が開催するバーベキューなどの催しに利用者も招待され交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学等で、来所された方々には、会話しやすいよう、入居者を傷つけないよう来所者に一言そえる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通し、現況報告をし、ご家族様よりご意見を伺い、ミーティング時にスタッフに報告・共有し、サービス向上に努めている。	会議の出席者は家族約20名、職員5名で年1回家族会の前に開催しているだけです。会議の内容は、現況等各種告、質疑応答の他に、要望事項等について話し合っています。	運営推進会議が家族会になっているので、地域住民代表や地域包括支援センター職員などの出席を仰ぎ、2ヶ月に1回開催するよう努力が望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1度の市相談員の受け入れと共に、困難等が起きた場合など、市担当者に電話にて相談している。	月1回市委託の介護相談員が事業所を訪問しています。訪問時は利用者全員の声を聞いており、終了後事業所と利用者の声について意見交換しています。市介護福祉課とは都度、不定期に電話で連絡しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表はじめ職員全体が、身体拘束しないことを理解しており、身体拘束研修も積極的に受講している。	毎年外部研修会に職員が参加しており、日頃からミーティングで話し合いを行っています。玄関は日中鍵をかけず、利用者が外出する時は必ず職員が同行して安全を確保しています。居室ではセンサーマットを敷いて拘束をしないケアを行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症実践者研修も数名受講しており、ミーティングなどでも勉強会を開いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要な該当者なし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分な時間をとり、代表・ケアマネージャー・管理者が同席し、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時や、電話などで、現況を報告し、ご家族にも日頃気になっている事等、伺うように努めている。	年1回家族会を行っており、参加者は約20名前後で、利用者の状況や行事予定などを話し合っています。月1回文書で利用者の状況を報告し、必要な時はFAXで連絡しています。家族は平均で月2回くらい面会に来ており、その際に職員と意見交換しています。	利用者アンケートで計画の説明不足や要望等について意見が分かれているので、今以上に利用者家族に対する丁寧な説明、対応が望まれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで話し合いの場を設けているが、日頃からスタッフとも意見の交換をしている。	月1回の職員ミーティングで職員の意見を聞いています。また年1回法人の代表が職員面談を行っています。今後は管理者も職員面談を行う予定です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフとは話し合いの時間をとるように努めており、現況を把握し、実践を把握し、実践を認めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、積極的に参加できるように、受講料も施設負担としている。仕事でもスタッフ一人一人に声掛けし、助言している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の管理者・ケアマネの見学受け入れを積極的にしており、他事業所への見学にも行き、意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には、ご本人の話を傾聴し、要望・意見を取り入れ、信頼関係に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に、ご家族より要望や気になっている事等を傾聴し、信頼関係に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限りご本人・ご家族のニーズに合ったサービスが出来るよう提案し、対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者お1人お1人に尊敬の気持ちを持ち、出来ることは、ご自分でやっていただき、支え合い生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現況を常日頃よりご家族に伝え、通院や身の回りの用意などを、ご家族に対応していただき、共にご本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来客の受け入れや、ご本人が葉書を書いたものをお預かりして出すなどのお手伝いをしている。	家族と共に馴染みの美容院に行ったり墓参りに行くこともあります。また毎週自宅に帰る利用者もあり、良い関係が続けられるよう支援しています。利用者アンケートから訪れやすい環境であることがわかります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク拒否される場合、本当にやりたくないわけではない場合もあり、うまく輪の中に入れていけるよう支援する。もめ事が起きた時には、間に入る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も入院された方のお見舞いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃より、お1人お1人とよく会話をし、傾聴し、その会話の中から、意向・希望を見い出すように努めている。	帰宅願望の強い利用者について、家族と話し合い定期的に自宅に帰ることで気持ちが落ち着いた例があります。また入浴好きな方には入浴回数を増やすなど、思いに沿った支援をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族より情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の観察・フェイス記録・スタッフからの情報交換に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とは日頃の会話、ご家族とは来所時やお電話で、意見や要望を伺い、ご本人、ご家族、ケアマネ、管理者、看護師でケース会議を開き、ご本人の希望を取り入れた介護計画を作成している。	介護計画は本人・家族・管理者・計画作成担当者などの関係者により担当者会議を開き、その人らしい暮らし方を探りながら作成しており、3ヶ月ごとに見直しています。また、急変時等には随時見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに日々の動向を記入し、スタッフ間の連絡ノートに気づきや変化、指示等を記入し、ミーティングでは、情報計画・状況確認をし、意見の交換をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族のニーズに合わせ、出来る範囲で、対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人・ご家族のご要望を伺い、他のサービスのご利用もして頂いている。ボランティア及び、年間レク行事等で、日々の生活にめりはりを付け、生活に活気を付ける様にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望に応じ、かかりつけの医者を選択して頂いている。かかりつけの医者に随時現況報告をしている。	月2回提携医の訪問診療を受けており、専門医の受診が必要な場合には家族が対応しています。何か変化があった時にはかかりつけ医に報告し連携をとっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護者は、日常の情報・気づきを随時看護職に報告しており、必要に応じて、すぐに受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設看護師と病院関係者と連携を取っており、お互いに情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明し、理解を得ている。他の施設への紹介も行っている。	重度化した場合には事業所の指針を示して家族と話し合いを重ね、方針を決めていきます。終末期のあり方やケア方法などについてはケース会議や普段のミーティングで話し合う他、看護師が研修を受けて内容を伝えています。	医師との連携も取れ、看取りを経験した職員もいますが、終末期のあり方について家族の同意を得るための書類はありません。職員の研修を含めた積極的な取り組みが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内の緊急連絡網がある。緊急時の対応マニュアルがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に1度は行っている。	自動通報装置、スプリンクラーが設置されています。同一敷地内の法人施設と自衛消防隊を組織しており、夜勤宿直者同士の連絡体制を取っています。年1回避難訓練を行っています。緊急災害用にソーラーシステムを事業所屋根に月内に設置することとなっています。備蓄は1週間分を確保しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者お1人お1人を尊敬し、出来る限り意志を尊重し、プライバシーを守っている。	入浴や排泄についてドアを閉めるなど羞恥心に配慮しています。また個別に丁寧に対応している様子が見てとれます。	利用者アンケートではきめの細かい対応に感謝しているとの声があります。一方居室に入る時に了解を得ないなどプライバシー保護の点で問題も感じられます。研修などによる徹底が望まれます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活では、入居者の方々に否定することなく、思い・希望をお聞きし、無理のない範囲で、自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活であっても、お1人お1人のペースに合わせ、出来るだけご本人のご希望に添うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけご本人を尊重し、否定しないように心がけているが、汚れたものは着続けることのないように気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前には、入居者の方々に献立を伝え、楽しみを増すようにしている。食事の片づけも無理のない範囲(コップ等)で手伝っていただいている。食事の前には、テーブル拭きをお願いしています。	食事は法人の厨房で作っており、ご飯・味噌汁を事業所内で作ります。月に1回ホットケーキなどのおやつ作りを楽しんでいます。	食事の配下膳や米とぎ、味噌汁作りなど、利用者のできることを見つけて支援することで自立を促し、食事の時間が活気あるものになるよう更なる取り組みが期待されます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量をフェイスシートに記録している。あまり食事が進まない入居者には、声掛けし、食べやすいように小さく切ったりして、召し上がっていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや誘導で、口腔ケアをして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを把握し、声かけ・誘導し、トイレでの排泄への自立の支援をする。	見守りや誘導など、排泄になんらかの介助を必要とする人が多く、個々の排泄パターンを把握して対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特に便秘気味の入居者には、十分な水分補給・運動など、声かけしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調・都合によっては、他の階の入浴日に入らせていただくこともある。	1階は月・水・金、2階は火・木・土と2日に1度の割合で入浴しています。職員は浴室に1名、脱衣所に2名介助にはいっています。拒否のある人には繰り返しの誘導や清拭・足浴などで清潔を保つよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意志にそって、必要に応じて、自由に休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が管理しており、連絡ノートや申し送りにて確認し、把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩やレクなど、個々の能力にあった支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気が良ければ、スタッフが付添い、散歩に出かける。買い物・外出等は、スタッフ付き添いで行ったり、ご家族にお願いして行って頂くこともある。	事業所の前には整備された広い公園があり、天気がよければ毎日散歩に出かけています。顔見知りもできて、バーベキューに招待されることもあります。年に数回外食に行きますが、家族からは、3ヶ月に1回のペースで外食に行きたいとの要望が出ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方は、所持されている。お買物は、スタッフが付き添う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている入居者は、自由に電話をかけている。手紙は、ご家族が承知されていればお預かりして出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、ソファを置き、テレビを観たり談笑出来る心地よい空間になっている。季節の花を飾ったり、ホワイトボードには、日付を記しています。	新しい建物なので清潔感があり、リビング、ダイニングが一体でソファやテレビが備わっています。リビングのサッシ窓は大きく開放感があり公園が全面に見渡せて明るい雰囲気を出しています。このリビングでは、利用者の居室からの呼び出しにコール板が点滅してすぐに対応できるようになっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでは、他の入居者と楽しく談笑され、お1人でもリラックスできるよう、居心地良い場所になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族協力のもと、ご自宅で慣れ親しんで来られた物を居室に置いて頂いています。必要であれば、写真・テレビ・ラジオ等も置いています。	居室はクローゼット、エアコン、洗面台、ベッド、コールボタンが設置されています。その他は持ち込みが自由になっており、利用者は思い思いに自宅の雰囲気を持ち込んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内に手すり、コールを設置しています。		